

基調講演

コロナ禍における学生へのメンタルヘルス ＝私たちができる学生への支援・対応策をメンタルヘルスの視点から考える＝

コロナ禍三年目を迎えました。オンライン授業から対面授業に戻る学校が多い中、教育現場では日々の感染防止対策に追われています。また、マスクの使用により学生の表情が読み取れず、意図が伝わっていないかどうかが不安になるなど、コロナ前の状態に戻っていないのが現状です。ストレスの長期化で孤独感を抱え、意欲の低下やメンタルヘルスの不調を訴える学生が増え、中には不登校や退学にいたるケースもあると聞きます。改めて教育現場の問題点や課題を整理し、学生への支援のあり方について考えていきます。

メンタルヘルス不調者の早期発見、学生一人ひとりの把握や意欲の促進、良好な人間関係の形成とコミュニケーション力の向上など、学生への対応策を紹介してまいります。

講演概要

廣川進先生の専門領域は、産業メンタルヘルス、惨事ストレス、そしてキャリアカウンセリングです。

学校や企業での現場経験を踏まえた、〈問題提起〉とその〈背景説明〉、そして〈解説〉を通して、学生へのメンタルヘルスについて理解を深め、メンタルヘルス不調の学生への具体的な対策について考えていきます。

〈問題提起〉 現在の学校現場の状況

〈背景説明〉 教育現場におけるメンタルヘルス不調の現状、問題点の整理

〈解説〉 コロナ禍で私たちができること。具体例や支援・対応策の提案

〈まとめとリフレクション〉

廣川進先生のプロフィール概要

法政大学 キャリアデザイン学部 教授（公認心理師・臨床心理士・文学博士）
1959年生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後、株式会社ベネッセホールディングスにて、雑誌編集（『ひよこクラブ』の創刊等）の傍ら、大正大学大学院臨床心理学専攻修士・博士課程を修了。人事部に異動後は衛生管理者としてヘルスケア部門を立ち上げる。2001年退社後、大正大学心理社会学部臨床心理学科教授を経て現職。他、海上保安庁（惨事ストレス対策アドバイザー）、国立国会図書館、千葉県庁（復職支援）、再就職支援会社、都内クリニック等で非常勤カウンセラーとして勤務を経験。職場の「メンタルヘルスとコミュニケーション」「リーダーシップとモチベーション」、「キャリアカウンセラー養成講座」などの研修講師も勤める。

〈主な著書〉

- ・「心理カウンセラーが教える「がんばり過ぎて疲れてしまう」が楽になる本」
ディスカヴァー・トゥエンティワン
- ・「失業のキャリアカウンセリング 再就職支援の現場から」金剛出版